

さわやかな音楽で楽しい職場づくり

藪原営林署 総務課 総務係 三島文雄

要 旨

藪原営林署の庁内は、平成7年2月1日現在、男性16名、女性3名、計19名、平均年齢は52歳8カ月という職員構成となっている。

近年は、新規採用者も少なく、年々高齢化し、職員数も減少傾向にあることから、職場は沈滞ムードにある。

このような中、我署では気分をリフレッシュさせ、楽しい職場づくりのために、“音楽の放送”を試みているので、その取組みを紹介する。

はじめに

日頃の職員同志の会話の中で、「仕事中に音楽を流したら、気分が落ち着いて、楽しい職場になるのではないか。」という声が、過去に何回か出されていた。

しかし、官庁が勤務時間中に“音楽”を聴いているということが、「外部から“悪いイメージ”として受け取られはしないか。」という不安、また「職員からの“反発”があるのではないか。」という先入観等で、今まで実施にまでは至らなかった。

ところが最近になって、再びこのような話しが日常会話の中で出されたことから、平成6年11月の安全衛生委員会のなかで実施の提案をしたところ、「やってみたらどうか」という事になり、平成6年12月初旬より試験的に実施した。

1 目 的

今日、銀行やデパートをはじめ、民間の会社等においては、常にさわやかな音楽が流れており、そこには“やすらぎ”や“明るい雰囲気”を感じることができる。

また、最近では“精神的療法”に“音楽”が使われている事例が多く、“やすらぎの音楽”とか、“アルファー波活用法”といった“タイトル名”は耳に馴染が深いところである。

ある情報誌によると、今、学生が就職先を決める条件に“週休二日制”“職場でのB・G・M”が挙げられているという。

そこで、我職場においても、音楽を流すことにより、精神的にリラックスでき、心にゆとりをもって、お互いに気持ち良く仕事ができるなど、職員に対する“メンタルヘルス効果”、外来者に対する“さわやかサービス効果”、更には、この他精神的効能による“職場環境改善効果”を期待し実施することになった。

2 具体的実施方法

(1) 放送時間帯

- * 午前10時のラジオ体操が終わってから12時までの2時間
- * 午後3時のラジオ体操が終わってから終業時までの2時間

午前、午後各2時間、1日4時間放送した。

(2) 放送施設等

- * 体操用テープレコーダー
- * アンプ（職員の中から廃棄予定のものを譲り受ける）
- * 庁内放送用のスピーカー
- * 接続コード
- * 音楽テープ（職員の中から、手持分を借りた）により構成した。

(3) 選曲

業務に支障のないよう、音量等に十分配慮すると共に、選曲も弦楽器を中心とした抑揚の少ない“クラシック”から始めた。

放送を繰り返すに当たり、「同じ曲であると“飽き”がくるので、曲目を変えてほしい。」という職員からの声があったため、途中から“小鳥のさえずり”や“映画音楽”等も取り入れた。

(4) 放送担当者

総務課長、総務係長が担当し、不在のときは、業務に支障の無い範囲で、在庁職員が担当した。

3 B・G・Mに対する職員、外来者の感想

職員については、10日ほど試験放送をした後に、また、外来者については、それぞれ来署の都度、簡単なアンケート方式により、感想を聞いた。

その結果は次のとおり。

アンケート調査結果（庁内）

Q1：B・G・Mの感想は？

A1：①楽しい職場づくりに ②職場が明るい雰囲気 ③心が落ち着いた ④事務能率が上がった

Q2：その他の感想は？

A2：①放送が楽しみである ②心の健康（メンタルヘルス）には大変有効である

Q3：音量は？

A3：①適当であった（大多数） ②小さ過ぎた（少数） ③大き過ぎた（少数）
（既設スピーカー2個使用のため、聞く位置により、音量に差が発生→後に解消）

Q4：放送希望時間帯は？

A4：①8：00～17：00（約半数） ②午前午後各2時間、1日4時間（約半数）
（今後放送する場合の参考としたい）

Q5：放送希望曲は？

A5：①クラシック ②軽音楽 ③環境音楽（いずれも“職場環境”に配慮したジャンルである）

Q6：昼休み前後におけるニュース・天気予報の放送は？

A6：①賛成（大多数） ②常時放送には反対（少数）（今後放送する場合の参考としたい）

Q7：その他希望等は？

A7：①放送施設の整備 ②有線放送の設置 ③手持ち音楽テープの有効活用
（①、②は経費も掛り実施困難、③は音楽テープ募集したところ30本ほど収集、有効活用へ）

Q8：今後放送することに？

A8：①賛成（全員）（職員全員から理解が得られた）

アンケート調査結果（外来者）

Q1：B・G・Mの感想は？

A1：①署が明るい雰囲気 ②署のイメージアップに ③心が落ち着いた
（外部からみても、少しずつ“職場環境改善効果”が表われている）

Q2：今後放送することに？

A2：①賛成（全員）
（職場におけるB・G・Mが、外来者に対する1サービスとして受取られている）

4 B・G・Mを実施している職場事例

木曾郡内における各職場に電話にて聞き取り調査を実施した。その結果は次のとおり。

(1) 官公庁 等

- * 大桑村役場
- * 水資源開発公団 味噌川ダム建設所 ほか

(2) 金融機関 等

- * 松本信用金庫 木曾福島支店
- * 八十二銀行 福島支店 ほか

(3) 病院 等

- * 小林歯科医院 ほか

※どの職場においても「“職員” “外来者” “来客” に対し、好評である」との結果が得られた。

5 実 施 結 果

- (1) B・G・M実施にあたり、概ね職員全員から理解と協力が得られた。
- (2) 職場の雰囲気は実施前より“和やか”になった様な気がする。
- (3) 部外者・来客から良い感想が得られた。
- (4) 放送設備は、既設のもの及び寄付によるものを使用したため、支出経費は“ゼロ”であった。
- (5) 音響については、庁内事務室既設スピーカー2個、庁内廊下既設スピーカー1個を使用した。が、“聴く位置によっては音量に差がある”との指摘があったため、個人から廃棄予定のスピーカー1個を増設した。その結果、どの席でも、ほぼ同じ音量で聴くことが可能となった。
- (6) 選曲が難しかった
① 同じ曲でも、個人毎に捉え方が違う。② テンポの速い曲やリズムの細かい曲、抑揚が常時ある曲は、事務所の雰囲気に馴染まない場合がある。
- (7) 事務処理能率の向上等については、試験放送を始めてから短期間であり、結果はわからなかったが、B・G・Mにより特に事務が停滞することもなく、アンケート調査結果からも、事務能率向上へ影響するものと思う。

おわりに

今、私達の職場は、高齢化・職員数の減少により、少数精鋭的な状況にある。
職員一人一人の職務は、以前に比べ“ハード”となっていており、そこに漂うムードは、何か緊迫
したような、また、何か沈滞したような職場環境となりつつある。

このような職場環境の下、“職場にB・G・Mを流す”という簡単な事により

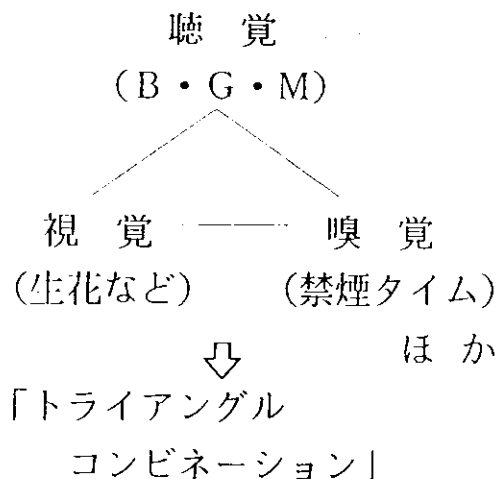
- 1 業務によるストレス・イライラの軽減・解消など“メンタルヘルス”への効用
- 2 業務に関する良いアイデアの発案から士気の高揚
- 3 事務処理能率の向上
- 4 より良い人間関係の形成
- 5 部外者・来客に対する接遇の向上
- 6 営林署のイメージアップ

などが期待でき、更にはこれらの効果により、職場環境が“明るく楽しいムード”・“活力ある
職場”へと改善されるものと確信している。

今回実施した試験放送およびアンケート調査の結果、“職場におけるB・G・M”に対し、大
勢の人から、理解と協力が得られたことから、今後も実施していきたいと考えている。

藪原営林署では、以前から女子職員の好意により、毎日、玄関・事務室・署長室等へ“花”を飾
って頂いている。

また、平成6年4月より、“職員の健康管理と人に優しい職場づくり”のため、“禁煙タイム”
も設定し、職員はもとより、外来者にも協力を頂いている。



今回の“職場におけるB・G・M”もこれらの活動と併せ、人間の“視覚”“聴覚”“嗅覚”に
訴えた、上図のような“トライアングル・コンビネーション”による、さらにより良い職場環境の
形成に向け、努力していきたい。